



伝元信筆 奔馬図

大和文華館の名品の中には、もと原三溪コレクションにあったものが多数含まれています。そこで今回は、この両者のむすびつきについてお話ししたいと思います。

三溪先生こと原富太郎氏は、私の知っている限り、日本の生んだ芸術のパトロンとして最大の人物であったと信じています。氏は横浜の生糸輸出の豪商であって、その生涯を通じ、生糸によって日本の国富を増すことに努力奮闘されました。しかし三溪先生のほとんど日本において他に比類なき偉さは、このような横浜の代表的実業家としての貢献よりも、むしろ、氏の趣味であった美術愛好の方面に現われた、と私は信ずるのであります。氏はその生糸貿易による巨大な富を基礎として、東洋美術、日本美術の大規模にしてかつ最も質のよい蒐集を作り上げ、それは日本でほとんど第一位と受取ってもさしつかえないほど、格調高いものでありました。

私が奈良に大和文華館を作ることになり、そのために美術品の買い集めを始めた頃、偶然私は横浜にいて、久しぶりに原邸を訪れたところ、その時には三溪翁はすでに亡くなっておられ、嗣子の方が、戦後の財界の大変動期に際して、美術品の整理を希望しておられたらしく、私はその当主より、相当巨額の融資をしてもらえないか、と相談をうけたのであります。原家所蔵の有名な美術の大蒐集は、その時までほとんどどこへも出たことが無かったので、これから私に託せられた大和文華館の蒐集を始めようとしているに際して、これを立派にスタートさせるためには、まだほとんど無傷に保たれて来た原コレクションの名品類を、この際思い切って譲りうけることが一番賢明である、また、このような機会は再びいつ出て来るかわからない、と判断し、私は原家コレクションの重要品はほとんど暗記している程よく知っていたので、即座に、記憶だけを頼りに、是非ほしいと思う名品を書き出し、またそれに、私としての出来るだけ公平な評価をいちいち書き入れたのでした。その時のことを今思い出しても、私は実に一生懸命でありました。大和文華館の出資者である近鉄が、いっぺんにこんな

大和文華館蒐集ものがたり② 原三溪コレクション

大和文華館々長 矢代幸雄

巨額の融資をしてくれるかどうか私にも見当がつかず、しかしながら、この思いがけない機会をはずしては、これほどの名品中の名品を一挙に手に入れることなど、絶対に不可能に相違ないので、私は神に祈るような真剣さをもって、全精神を打ちこんで、このリストを作りあげ、また、誰が見ても公正と信ずる評価を買き入れるのに全く一生懸命でありました。その時私は、美術をこの上なく愛した三溪先生の心を守り続けていくには、若い時以来先生によって養成された私自身がその任に当らなければならない、と考えたのであります。結局私の誠意が通じたものか、この案は実に気持ちよく原家に受け入れられ、また近鉄側も私をすっかり信用してくれたので、この名品揃いの大規模なる購入はいっぺんに決定されたのであります。これによって大和文華館のコレクションは、創立の歴史は浅いにもかかわらず、どこへ出してもひけをとらない大コレクションになり、大和文華館は一躍、相当の格式を備えた美術館になったのであります。

私がその時リストにあげたものは、大略次のようなものであります。

- | | |
|-------------------------|-----------|
| ●寝覚物語絵巻 | ●国 宝 |
| ●一字蓮台法華経 | ●重要文化財 |
| ●笠置曼荼羅図 | ●重要美術品 |
| ●柿本宮曼荼羅図 | いずれも現在の指定 |
| ●小大君図 | |
| ●可翁筆竹雀図 | |
| ●文清筆維摩居士図 | |
| ●伝周文筆山水図屏風 | |
| ●伝元信筆奔馬図 | |
| ●伝趙大年筆秋塘図 | |
| ●伝毛益筆蜀葵遊猫図、萱草遊狗図 | |
| ●伝光悦作群鹿蒔絵春日笛筒 | |
| ●光琳作扇面貼交手筥 | |
| ●乾山作彩画乱筥（いわゆる「むさし野の乱筥」） | |

季刊 美のたより No.6

昭和43年 6月1日

発行 大和文華館